

《国語の基礎確認シート13》 メモの活用

※ 解答は、解答用紙に書きましょう。



広田さんは、近所に住む東さんから金魚の話を知りました。  
次は、東さんの話と、それをもとにして広田さんが書いたメモです。

【東さんの話】※1から6までは、段落の番号を示します。

【メモ】

- 1 三世紀か四世紀ころ、中国で、突然変異によって黒から赤に変わったフナ、今でいうヒブナが発見されました。この魚が金魚の祖先といわれる魚です。ヒブナを原種として、「りゅうきん」や「らんちゆう」など、今や百種類以上におよぶとされる多様な金魚が生まれました。
- 2 フナが金魚の祖先であることは、金魚の赤ちやんを見れば納得できます。わが家の水そうで、卵からかえつたばかりの金魚は、どれもメダカにそっくり。そのまま大きくなったら、親金魚ではなく、フナになりそうです。でも、成長するにつれ、色が変わり、形が変わり、だんだんと親に似てきます。
- 3 日本で、金魚が多くの人たちに親しまれるようになったのは、十八世紀の半ばから十九世紀の初めごろだと考えられています。夏の風物詩の一つ「金魚すくい」も、このころに広まりました。
- 4 わたしたちが、金魚すくいでよく目にするのは「小赤」という種類です。これは、日本で生まれた金魚の一つで、その形は、りゅうきんなどとちがって、ほつそりとしています。
- 5 実はそれよりも前、十六世紀に、金魚はすでに日本に伝来していました。武家など、上流家庭で飼われていたようです。しかし、そのころが戦乱の世の中だったからか、大量生産が難しかったからか、あまり広まりませんでした。
- 6 その後、十七世紀に入って、各地で金魚を養いよくしようとする動きが出始めましたが、金魚はまだまだぜいたく品であり、一般の人たちからは縁のない存在でした。

A 金魚の祖先…突然変異した ( )

B 金魚の種類…今や百種類以上  
・りゅうきん、らんちゆうなど

C 金魚の赤ちやん…メダカにそっくり  
→だんだんと形や色に変化

D 多くの人たちが金魚に親しむように  
・「金魚すくい」など

E 金魚が日本に伝来  
・上流家庭で飼育 (あまり広まらず)

F 金魚を養いよくしようとする動き  
・まだまだぜいたく品

- (1) 【メモ】Aの ( ) に入る二字の言葉を、【東さんの話】の中からぬき出して書きましょう。
- (2) 【東さんの話】の1から6までの段落の中から、広田さんがメモを取らなかった段落を一つ選んで、その番号を書ききましょう。
- (3) 広田さんは、メモをもとに、「金魚の歴史」についてスピーチすることにしました。ところが、あることを書いていなかったため、自分で調べ直し、次のように話しました。

金魚は、三世紀か四世紀ころに中国で発見されました。日本に伝わったのは、十六世紀、室町時代のことです。十七世紀になると、金魚を養いよくしようとする動きが出始めました。しかし、金魚はまだまだぜいたく品であり、一般の人たちには縁のないものでした。(スピーチが続く。)

広田さんがメモに書いていなかったこととは何か、答えましょう。